

選後評

全国レベルの俳句に感動!

市制施行 20 周年記念第 11 回「立志虹の環ゆめ俳句選」の俳句を、楽しみにまた大きな期待をもって拝見しました。今回も俳句の素材(材料)を身近なところを探して作品化し、全国レベルの中学生俳句が生まれており、その優秀さに驚きました。例えば次のような作品です。日当山中2年の「暑い夏打てると信じて立つ打席」における強い信念と覚悟。国分中 3 年の「息白しまだ眠るまちひた走る」の根気と努力。隼人中2年の「両親のカフェを手伝い光る汗」の勤労と感謝。霧島中3年の「教科書と机を照らす星月夜」の努力と向上心。いずれもすばらしい中学生魂!です。私の卒業した霧島中学校永水分校はもうありませんが、霧島市の元気な中学生を心から応援しています。中学生諸君!志を立てよう!

2025 年 12 月 11 日

選者 淵脇 護

【選者紹介】

淵脇 護 先生

昭和15年霧島市霧島永水生まれ。

昭和38年俳誌「河」に入会、角川源義・角川照子・角川春樹の三代に師事して今日に至る。

第32回「角川俳句賞」、第5回・第17回「文學の森」大賞、第12回「日本一行詩大賞」。著作に、作品集『高原』『若芽』歌集『痛み』句集『襲の髭』『火山地帯』『襲魂』『鶴の天』『鷹柱』評論集『かごしまの俳句』。

現在、公益社団法人俳人協会鹿児島県支部長

・鹿児島県俳人協会会長・「河」筆頭同人

・「河鹿」主宰。元公立高校長。